

きもちのしるし



2022

海外救援活動報告書

©ウクライナ赤十字社

UKRAINE AND IMPACTED COUNTRIES

ウクライナおよび  
影響を受けている国々

MIDDLE EAST

中東

AFGHANISTAN

アフガニスタン

PAKISTAN

パキスタン

BANGLADESH

バングラデシュ

日本赤十字社は、皆さまからお寄せいただいた救援金をもとに、武力紛争や自然災害に見舞われた世界中の人びとのいのちと健康、尊厳のある生活を守るため、救援活動を行っています。

この冊子では、主に2022年の1年間で取り組んだ活動について報告いたします。

皆さまのご協力に、  
心より感謝申し上げます。

TONGA

トンガ

# 日本赤十字社は皆さまからいただいた「きもち」を 人道危機の中、厳しい状況に 生きる人びとに確実に届けます

## 2022年 海外救援金の 主な支援先



©ウクライナ赤十字社



©PRCS



©トンガ赤十字社



©Afghan Red Crescent Meer Abdullah

## この海外救援金事業は、SDGsの達成に貢献します

**SDGs**  
(持続可能な開発目標)



SDGsとは

「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

# UKRAINE AND IMPACTED COUNTRIES

## ウクライナ 人道危機救援

2022年2月24日以降、ウクライナ各地で戦闘が激化。日々子どもを含む死傷者が多数報告され、多くの人びとがウクライナ西部および周辺国やその他の国々に避難するなど極めて深刻な人道危機が起っています。未だ続く戦闘により、一般市民の命は危険にさらされ、インフラや経済は混乱。避難民を受け入れる地域でも、医療体制の逼迫や食料確保の状況悪化などが報告され、紛争が中長期化すると共に人道支援のニーズは高まり続けています。



写真上/©ウクライナ赤十字社、写真左下/©ロシア赤十字社、写真右下/©IFRC

### 国際赤十字の支援実績 2022年10月31日まで

国際赤十字は、ウクライナ国内そして周辺国で紛争の影響を受けて苦しんでいる人びとに寄り添い、幅広い活動を展開してきました。

 1,030万人に安全な水を提供

 91万4,000人に保健医療支援を実施

 1,170万人に基本的支援  
(物資支援など)の提供

 91万1,000人に対し現金給付

 150万人に居住・家屋修繕支援



写真上/©ハンガリー赤十字社  
写真下/©IFRC Hugo Nijentap

### 日本赤十字社はこれからも支援を続けていきます

日本赤十字社は、国際赤十字への資金援助に加えて、薬剤師、こころのケア要員、放射線技師等、多岐にわたる人材を派遣し、この人道危機に対応してきました。今後も中長期的な視点で、山岳部における巡回診療やリハビリテーションセンターの改築支援等、特に日本赤十字社が強みを持つ保健医療の分野を中心に、引き続き支援を実施していきます。



### 皆さまのご支援でできること

例えば **8,000円**で

ウクライナで避難民の家族(5人)が1ヵ月過ごすための食料セット(缶詰、パスタ、プロテインなど)を1箱用意できます。



例えば **60,000円**で

ウクライナの避難所で洗濯機を1台用意することができます。



### ありがとうの声

当時2歳と6ヵ月だった2人の子どもの連れて、ポーランド北部に避難しました。地元の赤十字社からおむつ、離乳食、新しい服の支援を受けました。武力紛争が激化する前のウクライナでは快適な生活をしていましたが、ここでは、食料や生活必需品を得ることがいかに難しいかを実感しています。そんな時にも、赤十字には助けてもらっています。

ヤナさん



©IFRC

ウクライナ  
人道危機救援金

支援の受付期間

2022年3月2日～2023年3月31日予定

寄付金額

合計 **77億 2,603万 6,930円**  
(2022年10月31日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら >>





# パキスタン洪水救援

水没被害により多くの家屋が損壊  
膨大な救援物資が求められています

2022年6月中旬から約2か月間パキスタンで降り続いた豪雨により発生した洪水は、人口の15%にも及ぶ3,300万人が被災し、1,700人以上が命を落としたと言われています。多くの人びとが住む場所を失い、避難生活を送る中、早急な家屋修繕や、家族用テントの配付、住宅再建支援等が急がれています。パキスタン赤新月社は早期から国際赤十字や、政府、国連、その他機関とも緊密に連携を取り、全国の膨大なニーズへの対応を続けてきました。これまで国際赤十字のサポートの下、584,440人に緊急の人道支援を届けています(2022年11月中旬現在)。

## 2022年11月までの支援実績

- ・居住支援 149,191人
- ・保健・医療支援 73,659人
- ・物資支援 283,823人
- ・給水・衛生および衛生促進 77,767人



©TRCS

## 2022年パキスタン洪水救援金

支援の受付期間 2022年9月6日～2022年11月30日

寄付金額 合計 **5,495万 1,343円**  
(2022年10月31日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら



# トンガ大洋州 噴火津波救援

気候変動の危機が迫る大洋州において  
支援を続けていきます

2022年1月15日、トンガの首都ヌクアロファの北約65kmに位置する海底火山で大規模な噴火が発生しました。噴火によって引き起こされた津波、降灰により、国民約10万人のうち被災者は推定8万4,700人以上にのぼると報告されています(トンガ政府報告)。新型コロナウイルス感染拡大で様々な規制がある中、トンガ赤十字社のスタッフとボランティアが給水や衛生用品を届けるなどの支援に従事しました。大洋州に浮かぶ島々は、サイクロンや地震、津波、火山噴火、干ばつなどのあらゆる災害リスクにさらされており、世界で最も災害に対して脆弱な地域と言われています。日本赤十字社はトンガでの救援活動の支援のほか同様のリスクを抱える大洋州地域の11の赤十字社の災害対応能力の強化や、防災知識の普及、ユースを含めた赤十字ボランティアの育成など、大洋州の島々に暮らす人びとがあらゆる問題に立ち向かえるよう、支援を続けていきます。



©Leki Lao / IFRC

## トンガ大洋州噴火津波救援金

支援の受付期間 2022年1月26日～2022年3月31日

寄付金額 合計 **2億 6,501万 1,130円**  
(2022年3月31日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら



# BANGLADESH

## バングラデシュ南部 避難民支援



2017年8月25日にミャンマー・ラカイン州で発生した暴力行為から逃れた避難民が、隣国バングラデシュ南部に流入してから5年以上が経過しました。今なおミャンマーへの帰還は実現せず、約90万人がコックスバザールで生活しています。避難民は経済活動や社会生活において大きく制約を受けながら暮らしています。

※国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロヒンギヤ」という表現をしないこととしています。

### 見えてきた新たな課題

人口が密集したキャンプ生活による運動不足や、配給食料からバランスの良い食事を摂ることが難しいなど、慢性疾患を抱えて診療所を受診する患者の数が徐々に増えてきました。また避難民を対象に行った調査では、身体的不調を訴える避難民は減少した一方、気分の落ち込みや緊張等の精神的不調を訴える割合が大きく増えていることが判明しました。さらに、バングラデシュの中でも貧しい地域の一つであるコックスバザール県では、大量の避難民を受け入れたことで社会の脆弱性が高まり、避難民との軋轢が強まるなど、キャンプ内のみならず外部コミュニティへの影響も懸念されています。

### 皆さまのご支援でできること

例えば **6,000円**で

ボランティア15人へ地域保健活動研修を提供することができます。



例えば **13,000円**で

心理社会的支援活動に使用するマシン1台を提供することができます。



例えば **25,000円**で

ボランティア35人へ応急手当等の研修を提供することができます。



### 健康に生きる力の向上と地域支援を目指して

国際赤十字と協力して診療所における母子のケアを含む保健医療サービスの提供、避難民ボランティアによる地域訪問、啓発活動の実施、また心理社会的支援との連携による包括的な患者支援体制の整備等を通じて避難民が安心して健康的な生活を送ることができる環境づくりを目指しています。



### ありがとうの声

喘息のような息苦しさがあるので生活習慣病外来に通院しています。処方された薬を飲んでだいふ楽になりました。日本赤十字社が支援する診療所は評判が良く、スタッフの対応や説明、治療内容もとても良いので通い続けています。

ディル・ムハンマドさん



バングラデシュ南部  
避難民救済金

支援の受付期間

2017年9月22日～2023年3月31日予定

寄付金額

合計 **1億 3,539万 6,880円**

(2022年10月31日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら >>



# 中東人道危機救援

3 すべての人に  
尊厳と権利を



6 緊急事態や災害  
を世界で



10 人道問題の改善を  
求めて



11 日本国境付近に  
ある国境



16 平和と公正を  
すべての人に



中東地域は70年以上続くパレスチナ・イスラエル問題、2010年以降各地で続く散発的な武力衝突など、度重なる人道危機によって多くの難民が発生し、多くの方が不安定な情勢の中で暮らしています。難民の多くは衛生的な水や基礎的社会インフラ、医療サービスへのアクセスが制限されており、例えばレバノンでは深刻な金融・経済危機による生活の困窮も相まってさらに人びとに深刻な影響を与えています。日本赤十字社はレバノンに中東地域代表事務所を構え、国際赤十字と共に中長期的な支援に取り組んでいます。



## パレスチナ赤新月社医療支援事業

日本赤十字社は医療サービスの向上のために、レバノンとパレスチナ自治区ガザの赤十字病院(患者の多くがパレスチナ難民)に医師や看護師を派遣し、救急患者の対応や適切な患者記録、術前術後のケア等、日本人ならではのきめ細やかなサービスを現地の医療従事者へ伝えていきます。2020年3月以降は感染症のまん延によりオンラインでの遠隔支援でしたが、2022年4月にレバノンへの日本人の現地派遣を再開。ガザ地区へは現在もオンラインでの遠隔支援が続いており、2023年中の日本人の現地派遣再開を目指しています。



## レバノン赤十字社 水・衛生環境改善事業

レバノンに暮らすシリア難民の多くは、シリア国境付近の非公認居住区と呼ばれる、生活インフラが十分に整っていない場所で長期に渡る避難生活を送っています。日本赤十字社では難民と難民を受け入れる地元コミュニティの人びとが利用するレバノン赤十字社診療所の環境整備を支援し、人びとのいのちと健康を守る活動を行っています。



### ありがとうの声

サファッド病院の医療・看護サービス向上のために支援くださってありがとうございます。日赤のみなさんと一緒に活動することによって各部門のパフォーマンスが向上していることを嬉しく思います。

アジーザ医師



中東人道危機救援金

支援の受付期間

2015年4月1日～2023年3月31日予定

寄付金額

合計 3億 9,302万 4,751円

(2022年10月31日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら >





# AFGHANISTAN

## アフガニスタン 人道危機救援

### 政変から1年 重なる災害・危機で更に深刻な状況に

大きく報道された政変から1年以上が経過する中、過去30年で最悪といわれる干ばつ、それに伴う食料危機、新型コロナウイルス感染症の流行などさまざまな災害や危機が同国を襲い、複合的な人道危機が更に深刻化しています。さらに、6月の大地震をはじめ、7月8月にかけて大雨により洪水が発生し、全国34州のうち20州以上で大きな被害が出ました。アフガニスタン赤新月社は、地域に根差したネットワークを活かし、15万世帯以上に食料支援、15,000世帯に現金給付を実施。また、140以上の医療施設や巡回診療チームが、定期的な予防接種を含む一次医療サービスを全土で提供し続けていますが、今なお2,000万人以上が緊急の支援を必要としています。



©ARCS

#### アフガニスタン人道危機救援金

支援の受付期間 2021年9月22日～2023年3月31日予定

寄付金額 合計 **4,761万 2,565円**  
(2022年10月31日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら



# AFGHANISTAN

## アフガニスタン 地震救援

### 60,000世帯の家屋が損壊 複合的な人道危機に追い打ちをかける

2022年6月22日未明、アフガニスタン南東部でM5.9の地震が発生。1,000人以上が命を落とし、60,000世帯の家屋が損壊しました。複合的な人道危機によりすでに国民の半数に及ぶ人びとが人道支援を必要としていた中、この地震被害は、同国の人道危機に追い打ちをかけるものとなりました。国際赤十字は現地での人道支援活動を続けてきたアフガニスタン赤新月社と共に、医療救護や物資支援、地震で家族を失った人びとに対するこころのケア等の支援を実施。中期的な支援として家屋の修繕や生計の立て直し、保健施設の再建などを継続しています。



©IFRC Asia Pacific Meer Abdullah Rasikh

#### 2022年アフガニスタン地震救援金

支援の受付期間 2022年6月27日～2022年9月30日

寄付金額 合計 **2,926万 4,071円**  
(2022年9月30日現在)

活動の詳細い  
内容はこちら





Bangladesh: 生活習慣を変えるためのセッションの説明をする日本赤十字社員



©IFRC Asia Pacific Meer Abdullah Rasikh

Afghanistan: 被災地の子どもと話をする国際赤十字職員



Poland: ワークショップでこころのケアのペアワークをする参加者と日本赤十字社員



©IFRC Katie Hope

Pakistan: 救援物資配付の準備をするパキスタン赤新月社ボランティア

これからも日本赤十字社は世界中の赤十字社・赤新月社と共に  
災害や病気・紛争などで苦しむ人を救うための活動を続けていきます

救うための活動を続けていきます

# 皆さまのご協力をお願いします



Palestine Red Crescent Society Lebanon Branch  
and  
Japanese Red Cross Society  
Medical Cooperation Project - Phase 2

医療支援事業に従事する  
日本赤十字社員と  
パレスチナ赤新月社の  
スタッフ

ご協力方法や寄付による  
税制上の優遇措置については  
裏表紙をご覧ください



## ご協力方法



### 郵便局・ゆうちょ銀行

お近くの郵便局窓口から手数料無料でご寄付いただけます。



### インターネット

スマートフォンやパソコンから、ご寄付いただけます。  
また、銀行振込の振込先、クレジットカードでの振込方法、  
事業実績等につきましても二次元バーコードから  
ご確認くださいませ。



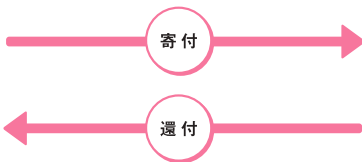
現在募集中の  
海外救援金はこちらです



## 税制上の優遇措置

日本赤十字社へのご寄付は確定申告をすることで、  
税制上の優遇措置を受けられます

個人の場合



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



税務署

所得控除の計算式

$A: \text{年間所得総額} - B: (\text{寄付金額} - 2,000\text{円}) = C: \text{所得税課税対象額}$

※ただし、対象となる寄付金額は年間所得総額の40%が上限となります。

[お問合せ先]

### 日本赤十字社

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 活動に関するお問合せ：TEL 03-3437-7088  
寄付に関するお問合せ：TEL 03-4363-2056  
平日9:00-17:00(土日祝日除く)

<https://www.jrc.or.jp>

日本赤十字社

検索



赤十字が世界各地で取り組んでいる人道支援活動について  
毎週、最新のニュースをお届けします

「赤十字国際ニュース」メールマガジン



ぜひ  
ご登録  
ください